

宮川の風 第52号

平成30年6月29日（金）発行
宮川小学校校長室からのたより

重大な凶悪事件や大きな過失による大事故などを起こすと、本人はもちろんのこと、その家族までもが大きな代償を払わなくてはなりません。死刑が確定するような凶悪事件を起こした犯人の家族が、その後、生き場所をなくし自ら命を絶ったという事例は、これまでも多くあったようです。

平成20年6月8日に起きた「秋葉原通り魔事件」でも、犯人の弟であった方が数年後に自ら命を絶ちました。家族が起こした事件であっても、あまりの凶悪さから家族までも世間から攻撃・排除されてしまったのでしょうか。悲惨な結末ではあるのですが、被害者遺族の心境を思うと複雑です。

なぜ、そのような重大な事件や事故が起きるのでしょうか。一つ一つの事件や事故にはいろんな背景があるのだと思います。それは避けようのないものであり、時に、犯人の境遇を自分に置き換えて考えてみたりします。

裏面の話をお読みください。

親の歪んだ欲望と見栄が、一人の人間の尊厳を奪い人生を台無しにしてしまったのです。さらに、被害者やその遺族にまでも・・・。

親が子どもに期待するのは当然でしょう。期待に応えようと、子どもは頑張り自分の可能性を広げていきます。何も期待されずに、無関心に育てられてしまうのは不幸です。大切なのは、適度な期待と賞賛と深い絆ではないでしょうか。「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」の言葉のとおり、教えることと褒めることはセットでなければならないと思います。「打ちのめす」のではなく「次のやる気」を引き出す言葉かけを意識したいものです。

笑顔で食事を囲むごく普通の出来事が、子ども心の成長には不可欠なのだと思います。

鹿児島南警察署からのお願い

先般南警察署では、児童買春・児童ポルノ法違反等で被疑者の成人男性を逮捕しました。被疑者は、この事件の被害者である十代の少女とインターネットのSNSを通じて知り合い、スマートフォンで撮影した被害少女の動画画像等を送信させ、性的な関係に至っており、まさにインターネットの恐ろしさを如実にあらわす事件と言えます。

- 出合いを求める書き込みは、絶対にしない
- ネット上で知り合った相手とは、絶対に会わない
- 個人情報や写真は、絶対に掲載しない

身近なところで起きた事件です。「なりすましメール」にだまされるケースも多いようです。ゲーム・スマホ・PCなどの使い方については、保護者が細かく注意していきましょう。

ある日のできごとから



火曜日の昼休み時間に、図書委員会の子どもたちが人形劇を披露してくれました。観客のほとんどは低学年の子どもたちでした。図書委員の子どもたちは、上手に人形を動かしながら台詞を言っていました。オオカミが出てくるこわ～いお話でしたが、かわいらしい人形が楽しく演じてくれました。勉強や運動に忙しい高学年の子どもたちがいつ練習したのかは分かりませんが、来てくれる低学年の子どもたちを喜ばせようと頑張る姿に感動しました。私が小学校の高学年だった頃の昼休みは、自分が遊ぶことしか考えていませんでした。人のために昼休み時間を使う発想はありませんでした。すばらしい子どもたちです。

雨の日は雨靴での登校も当たり前です。途中で天気が回復して校庭で体育が行われることもあります。雨靴で運動する子どもを見ると、運動はしにくそうですが楽しそうに活動しています。安全面には十分な注意をしながら、体育を楽しんでほしいと思います。小学校ならではの光景になんとか心が癒やされます。

（文責；鹿児島市立宮川小学校長 松永幸二）